

病虫害発生予察注意報 第 1 号

病虫害名 モモせん孔細菌病

- 1 発生予想 モモせん孔細菌病が、今後多発する恐れがある。
- 2 対象地域 県下全域
- 3 根拠
 - (1) 4月下旬の巡回調査において、例年に比べ春型枝病斑の発生が目立ち、越冬菌密度が高かったものと推測される。
 - (2) 5月上旬の巡回調査において、調査ほ場 10 地点のうち 9 地点で葉での発病が認められ、昨年の 5 月下旬よりも高かった。また、発生量は多発した平成 23 年の 6 月上旬調査結果と同程度（または多い）であった（表 1）。
 - (3) 今後の気象経過にもよるが、現時点では発病葉率が高く、果実被害が増加する可能性があると考えられる。
 - (4) 気象庁 5 月 5 日発表によると、今後の向こう 1 か月の気象は平均気温が高い確率が 60%、降水量は平年並または多い確率が 40%と予想されており、平年に比べ晴れの日が少ない見込みで、本病の発生に好適である。

表 1 モモせん孔細菌病巡回調査結果

調査地点	本年	平成27年	平成23年(多発年)	
	発病葉率% (5月上旬)	発病葉率% (5月下旬)	発病葉率% (6月上旬)	発病果率% (収穫期)
小諸市三岡	1.7	0	0	15
佐久市平根	4.9	0	0	0
豊丘村河野	2.7	0	3.5	0
松本市波田	6.2	0	7.8	3
安曇野市三郷	4.2	0	—	—
長野市川中島	6.6	0	1.8	1
長野市川田	7.9	0	6	10
須坂市相之島	0	0	0	0
中野市新井	1.9	0	0.7	10
山ノ内町平穏	3.5	6.9	4.7	19

注) 調査時期：平成23年は6月上旬、平成27年は5月下旬から調査実施



写真 1 モモせん孔細菌病の病斑



写真 2 枝病斑の除去を必ず行う



4 防除対策と留意点

- (1) 春型枝病斑の除去をしてない園地では早急に罹病枝を切除し、埋却等の処分を行う。
- (2) 葉病斑や春型枝病斑がみられている園では、果実への感染防止を図るため、早めに袋掛けを実施する。
- (3) 多発園では7月上旬までチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）500倍液、バリダシン液剤5の500倍液、デランフロアブル600倍液、マイコシールド1500倍液のいずれかを散布する（表2）。
- (4) 薬剤を選択する際は、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の登録内容を遵守する。また、同一薬剤の連用は耐性菌の出現のリスクがあるので、連用せずにローテーションで使用する。
- (5) 天気予報等を活用し、散布予定日に降雨が続くと予想される場合は防除を前倒しして行うか、天候の回復後、葉が完全に乾いてから速やかに行う。薬剤の散布間隔があきすぎないように注意する。

表2 モモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤と使用基準（ネクタリンは除く）

薬剤名	成分名	FRAC コード	希釈 倍数	使用 時期	使用 回数
チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	チウラム	M3	500	7日前	5
バリダシン液剤5	バリダマイシン	26	500	7日前	4
デランフロアブル	ジチアノン	M9	600	7日前	4
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	41	1,500	21日前	5

注1)デランフロアブルは展着剤のアプローチ BI、ニーズを使用すると薬害を生じるので使用しない。

注2)マイコシールドは薬剤耐性菌出現のおそれがあるので注意する。

注3)オキシテトラサイクリンを含む農薬にはマイコシールドの他にアグリマイシンー100があるので総使用回数に注意する。

病虫害防除所 発生予察課

所長：久保田純司 担当：岩崎和之

TEL：026-248-6471(直通)

FAX：026-248-6473

Eメール：bojo@pref.nagano.lg.jp

<http://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>